

AOI通信

静岡音楽館俱楽部情報誌

July 2008

50th Anniversary
創刊50号記念
July 2008

AOIは音触館



AOI通信は、おかげさまで今回で創刊50号を迎えることができました。これも偏に、当館の活動を支えて下さっている静岡音楽館俱楽部の会員の方々、そして開館以来当館をご来館くださった数多くのお客様、特別協賛各社等々のご支援の賜と、スタッフ一同、皆様のご厚情に心より感謝致しております。

創刊50号を迎えたAOI通信は、今回からガラッと趣向を変え、「手にとるように、音と遊ぼう♪」「AOIは音/触/館/」という新コンセプトを受け、今後は、いままであまりご紹介することのなかった当館の日頃の活動や、音楽に関するより身近なテーマにもスポットをあて、よりわかりやすい、親しみやすい会報誌として皆様にお届けしてまいりたい、と思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

さて、新装開店・第1号となる今回の巻頭特集では、創刊50号を記念して、AOI芸術監督の野平先生、企画会議委員の福田先生、さらに当館学芸員・小林をオブザーバーに、音楽とのそれぞれの出会いや触れ合い、その道に進むきっかけ等について語っていただいた対談の模様を、ご紹介してみようと思います。



僕にとってギターは嫌いなピアノから救ってくれた”救世主“みたいなモノだったんです。



福田進一（ギタリスト）プロフィール
静岡音楽館AOI企画会議委員。
1955年、大阪府生まれ。斎藤達也にギターの手ほどきをうける。パリに留学し、エコール・ノルマル音楽院にてアルベルト・ポンセに師事し、同音楽院を首席で卒業。イタリア・キジアナ音楽院にて最優秀ディプロマを取得。1981年にヤリ国際ギター・コンクールで優勝。
それ以降、ソリストとして世界各地で公演すると共に、様々なオーケストラとも共演。
また教育者としても、鈴木大介、村治佳織らの有望な若手を数多く育てている。

福田進一

創刊50号記念特別対談

僕も、親がJAZZ好きだったというコトもあってか、小さな頃からピアノ教室に通っていましたね。音楽との出会いといえば、それがそもそもだったと思うけど。でも、当時の僕はそれがイヤでイヤで…(笑)。だって、僕が生まれ育ったのは、あの大阪の船場。しかも、時代は昭和30年代という、いわゆる「三丁目の夕日」世代な訳だから、僕以外、ピアノ教室には同世代の女の子しかいなくて。照れくさいやら、友だちから冷やかされて恥ずかしいやらで、ホント苦痛だったんです(笑)。そんな僕に転機が訪れたのは小学校6年生の時。そのピアノ教室の上に、ギター教室ができたんです。ある日そこにフラッと遊びに行ったら、そこは、いわゆるカッコイイお兄さん&お姉さんたちの大人的世界。すると幼い僕は、その中で途端にアイドルなっちゃったんです。あらカワイイとか、僕も弾いてみる!とか、「のせられ」「もてはやされ」、あげくにちょっと上手に弾けると、うわあ天才!なんて「おだてられて」、単細胞の僕はもう有頂天(笑)。即、親に無理矢理頼み込んで、ピアノ教室からギター教室に鞍替えした、って訳です。それからの日々は、まさしくバラ色の日々(笑)。

以来、真面目!? (笑)にギターと向き合ってきた僕は、18才の頃にヤマハ・コンクールで賞を受賞したのをきっかけに、次第にプロを意識しはじめ、一端は普通の大学に進学したものの、ある日聴いたジュリアン・ブリームのレコードに強く感化された、というのもさらなるきっかけとなり、21才で大学を中退し単身パリに渡り、ギター修行を重ね現在に至った、という訳です。
偶然にも、僕もこの道に進むことになったきっかけは、野平さん同様、小さい頃に「おだてられた」という言葉が大きめ起因した訳だから、ある意味「おだて上手」というのは、とても重要なキーワードなのかも知れませんね。

私の場合、きっかけはYMOとの出会いだったんです。

野平先生や福田先生の幼少期とはまったく異なり、恐るながら白状してしまうと(笑)小さな頃の私は音楽にはほとんど興味がなくて、とにかく絵を描くのが好きで、大人になつたらデザイナーになりたい、なんて夢を、当時は漠然と描いていました。そんな僕が音楽に興味を持ち始めたきっかけになったのは、意外!? にも、小学生の終わり頃に耳にした、あのYMOの音楽との出会いだったんです。一般的には、テクノサウンドがきっかけで、なんでクラシック等に興味が…!?と思われるかも知れませんが、当時の僕にとってYMOサウンドは、さながら「音楽の世界への扉」みたいな存在で、YMOサウンドを聴く内に、次第に、あのサウンドが生まれるヒントとなった伝統音楽や、メンバーが影響を受けた作曲家やアーティストたちの音楽にも興味を抱き(例えば…パリのガムランや、ビートルズ、ドビュッシー、現代音楽等々)、次第にその世界が広がり「音楽そのもの=音楽全体」の魅力のどりこになつていった、という訳です。

ただ両先生とは決定的に異なり、残念ながら僕は、プロを目指せるような楽器のたしなみ等をほとんど持たなかつた、ということもあり、また、もともと絵が描くことが好きだった、ということもあって、大学に進学する際「音楽や美術の枠を超えて“芸術”を総合的にプロデュースする道に進もう!」と、美大の芸術学科(美術を核に芸術全般&プロデュース学を学ぶ専科)に進み、現在は当館の学芸員として、両先生のコンサートをはじめ、様々なアーティストの皆さんの活動を影からサポートさせていただいている、という訳です。

僕は両先生の様に、小さな頃に「おだてられて」(笑)音楽のプロを目指そう! 等という様な経験はなかったのですが、現在当館で開催している「子どものための音楽ひろば」等の活動を通して、「ほめてあげる」ことで子どもたちの目がイキイキと輝いてくる、というのを目の当たりにしている体験からしても、両先生がおっしゃる様に、良い意味で「おだててあげる」コトも大切なんだ、と実感しています。

意外にも、きっかけは、

野平一郎

野平一郎（ピアニスト・作曲家）プロフィール
静岡音楽館AOI芸術監督。1953年生まれ。東京芸大、同大学院修士課程を修了後、78年、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院で学ぶ。ピアニストとして、内外の主要オーケストラにソリストとして数多くの初演に携わる一方、様々な名手たちとも共演し、伴奏、室内楽奏者としても活躍。作曲家としては、4曲のフランス文化庁委嘱作品をはじめ、数多くの委嘱作品があり、その多彩な活動により各方面から多大な評価を受けています。



僕が音楽、というかピアノと向き合いはじめたのは6才の頃。母に勧められてピアノを習いはじめたのが、きっかけだったんです。でも、その頃はまだ外で遊び回る方が好きで、最初の頃はイヤイヤ習っていた、というのが正直なところでしたね。

そんな当時の、僕の唯一の愉しみだったのが「グリコのおまけ」。年輩の方なら皆さんご存じのように、当時の子どもたちにとって、「グリコのおまけ」はまさしく宝物。その宝物がピアノを習う度にもらえて、どんどん貯まっていく! とあって、それについて(笑)ピアノを習うのが次第に楽しくなっていったんです。そうこうしているうちに、ピアノの腕も次第に上達しはじめ、おまけに当時の先生がとても「おだて上手」な方だったので、習う度に「ほめられ」「おだてられる」うちに、僕もすっかりその気になっちゃったんでしょうね(笑)。

そんな僕が、プロを意識し始めたのは、小学校4年生の頃についたある先生の影響。その方は、かつて日本人で唯一カラヤンと共演した、という伝説の持ち主で、とにかくカッコよかったんです。以来、その先生への憧れもあってか、純粋にピアノに夢中になっていき、猛練習を重ね現在に至った、という訳です。いま思うと、幸いにも僕は、幼い僕を「上手におだててその気にさせてくれた」良い先生たちとの出会いや、環境に恵まれたからこそ今日がある、と思っているんです。



AOI学芸員・小林旬



触
れあ
う
音
音

ドキュメントAOI

コンサートの裏側全て見せます vol.1

6/12(土)
19:00開演
出演／池辺晋一郎、福田進一、野平一郎、新日本フィルハーモニー交響楽団アンサンブル

皆様にコンサートをお届けするためには、出演者はもとより、それに携わる様々なスタッフが、文字通り一日がかりで（時には前日から）周到な準備を進め、本番に備えています。ココでは、そんなコンサートの舞台裏にスポットをあて、ちょっとご紹介してみようと思います。

●野平先生は時おり客席から、全体の音のバランスをチェック。



15:00

ゲネプロ開始。
前日のリハーサルに続き、
本番前の通し稽古です。
御来場いただくお客様に最高の
ステージをお届けできる様、
本番さながらの熱のこもった
練習が続きます。



●15:00からのゲネプロ
(リハーサル)に備え、
控室で談笑する池辺先生。

●池辺先生と野平先生は、
MCも含め、ゲネプロ途中に
気になる点を入念に打合せ。

17:00

ゲネプロ終了。出演者たちは
各々本番前のしばしの
休息&着替えなど本番に
備えます。



●お客様を
客席へと誘う
ボランティアスタッフ
のドアマン。
※実はAOIでは、この
様なボランティア
スタッフが大勢、コン
サート本番を盛りた
ててくれています。

18:30

受付開始。待ちわびたように
沢山のお客様がご来館。
接客スタッフの腕の見せ所です。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

●舞台裏では、技術スタッフが音響、照明等を
常時こと細かにチェックしています。



●曲ごとに、舞台袖を出演者や楽器、
進行スタッフ等が目まぐるしく
行き来します。

AOI 育ち

おたまじゅくし奮闘記

AOIではかねてより、未来の音楽家の育成に情熱を注いでいます。ここで紹介する「子どものための音楽ひろば」ならびに「ピアノ伴奏法講座」は、その代表格ともいえる活動。過去にここで学び、現在は優れた音楽家として活躍されているOB&OGも数多くいるんですよ。



ピアノ伴奏法講座 聴講生募集

日本を代表する作曲家であり、ピアニストの、静岡音楽館AOI芸術監督・野平一郎が主宰する「アンサンブルができるピアノ」を養成する講座です。2008年度は、ヴァイオリンならびにフルートとのデュオ・レパートリーを学びます。全国的に珍しく貴重なこの講座に、ぜひふるってご参加ください。



●第1期(2006/6/3～2007/2/24)では、応募総数33名の中から6名が選出され受講。
第2期(2007/6/2～2008/2/17)では、応募総数26名の中から6名が選出され受講。
各受講生は、現在各音楽コンクール等にて多くの賞に輝き、活躍中です。



【講師&クラス紹介】

野平一郎(のだいら いちろう)
作曲家・ピアニスト・「ひろば」の塾長
AOIの芸術監督。コンサートや「ひろば」などAOIの活動をプロデュースしています。ふだんは、作曲したり、コンサートでピアノを弾いたり大忙しの音楽家。



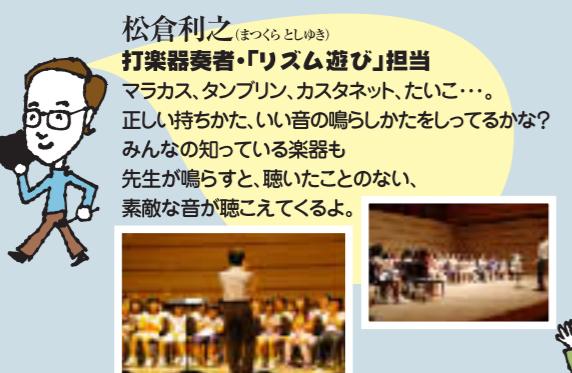
原田敬子(はらだ けいこ)
作曲家・「遊び・作曲」担当

毎年大人気の授業。鼻歌でふふへんと口ずさんだメロディーを、君だけの曲に仕上げよう。詩を書いたり、絵を描いたり、メロディーを作ったり、君の得意分野を見つけるチャンスだよ!

戸崎裕子(とさき ひろこ) **戸崎文葉**(とさき ふみよ)

合唱指揮者・「うた」担当

息をすったり、はいたりすることは、人間が生きている一番大切な力です。あたまにしげきを与え、こころのバランスをとる体操をしましょう。そして、お腹の底から、力いっぱい、声を出しましょう。うたって、自分を表現する場にして下さい。



志村 泉(しむらいすみ)
ピアニスト・「こんにゃく体操」担当

ピアニストなのに、みんなにはその名も不思議な「こんにゃく体操」を教えてくれます。

こころもからだもやわらかく。

手や足がなんなかながへくなったような感じがする体操。一年後には、地球の中心に向かってまっすぐ立つができるようになるかな。



【課外授業などのお楽しみもいろいろ】

紹介のクラス授業以外にも、コンサート鑑賞やコンサートのお手伝い、静岡科学館る・くるに出掛けたる課外授業など、いろいろなお楽しみが…。



子どものための音楽ひろば

音楽を通じた幅広い経験をすることによって、子どもたちが自らの能力に気付くことを願って運営している「子どものための音楽ひろば」も、今回で第10期。今期は小学校4年生～中学校3年生まで、141名の応募者の中から抽選により70名の子どもたちが、紹介のようなユニークな4つのクラスでの授業等を通して、音楽の楽しさをのびのびと、楽しく学んでいます。※今期の「ひろば」のみんなはクリスマス★コンサートにも参加予定。特にハリキッテいますよ!

【講師&クラス紹介】

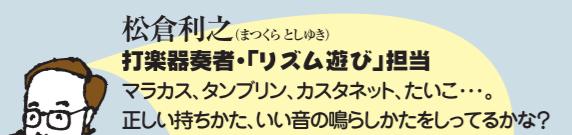
野平一郎(のだいら いちろう)
作曲家・ピアニスト・「ひろば」の塾長
AOIの芸術監督。コンサートや「ひろば」などAOIの活動をプロデュースしています。ふだんは、作曲したり、コンサートでピアノを弾いたり大忙しの音楽家。



原田敬子(はらだ けいこ)
作曲家・「遊び・作曲」担当

毎年大人気の授業。鼻歌でふふへんと口ずさんだメロディーを、君だけの曲に仕上げよう。

詩を書いたり、絵を描いたり、メロディーを作ったり、君の得意分野を見つけるチャンスだよ!



戸崎裕子(とさき ひろこ) **戸崎文葉**(とさき ふみよ)

合唱指揮者・「うた」担当

息をすったり、はいたりすることは、人間が生きている一番大切な力です。あたまにしげきを与え、こころのバランスをとる体操をしましょう。そして、お腹の底から、力いっぱい、声を出しましょう。うたって、自分を表現する場にして下さい。



志村 泉(しむらいすみ)

ピアニスト・「こんにゃく体操」担当

ピアニストなのに、みんなにはその名も不思議な「こんにゃく体操」を教えてくれます。

こころもからだもやわらかく。

手や足がなんなかながへくなったような感じがする体操。一年後には、地球の中心に向かってまっすぐ立つができるようになるかな。



Produce 野平一郎
静岡音楽館AOI芸術監督

第3期 静岡音楽館AOI

ピアノ伴奏法講座 聴講生募集

日本を代表する作曲家であり、ピアニストの、静岡音楽館AOI芸術監督・野平一郎が主宰する「アンサンブルができるピアノ」を養成する講座です。2008年度は、ヴァイオリンならびにフルートとのデュオ・レパートリーを学びます。全国的に珍しく貴重なこの講座に、ぜひふるってご参加ください。



●第1期(2006/6/3～2007/2/24)では、応募総数33名の中から6名が選出され受講。
第2期(2007/6/2～2008/2/17)では、応募総数26名の中から6名が選出され受講。各受講生は、現在各音楽コンクール等にて多くの賞に輝き、活躍中です。

★「子どものための音楽ひろば」「ピアノ伴奏法講座」に関するご質問・お問い合わせ等は、当館7階インフォメーションまでお気軽に。

AOIふれあい伝言板^{Q2}

お客様から頂戴したご意見・ご要望をQ&A形式でご紹介

Q1.

オルガンとオーケストラの競演が見たい。

(島田市・おろくぼの風さん)

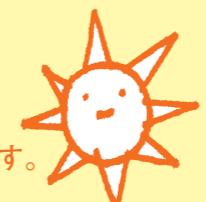
A1. ご意見ありがとうございます。

今年度は、残念ながら競演コンサートは予定されていませんが、オルガンのコンサートは、12/12(金)に行われます。いま日本でもっとも注目されているオルガニスト、椎名雄一郎の演奏をお楽しみいただけます。また、9/20(土)には裏表紙のPICK UPアーティストで紹介の大木麻理さんが出演、12/23(火・祝)にはAOIゆかりの一流アーティストたちが一堂に会する、豪華なクリスマス★コンサートが開催されます。こちらでもオルガンが登場しますので、ぜひご来場の上お楽しみください。

Q2.

高齢なので、夜の遠出は控えたいです。

(葵区・クラシック大好きさん)



A2. 当館では、より多くの方にご来場いただけるよう、夜のコンサートだけではなく、昼間のコンサートも行っております。特に今年度は、開館以来初めての試みとして、平日の昼食時間帯にコンサートを行います。1時間程度の短いコンサートです。美しい音色を堪能した後に、楽しいランチを計画されてはいかがでしょうか。

Q3.

野平一郎さんの演奏中、空調で楽譜が舞ってしまい、大変残念でした。

何か対応はできなかったのでしょうか。

(駿河区・小林様、清水区・匿名)

A3. このたびは、ご来場のお客様にご迷惑をおかけして、誠に申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げます。今後は、二度とこのようなことが起きないよう、原因を追究するとともに、再発防止に全力を挙げて努めて参ります。今後ともご愛顧ください。

※余談ですが…

野平監督の今回のアクシデントの際、池辺先生が瞬時にステージへと出向き、その場をうまく繋いで下さいました。最悪の局面でも、とっさに場を和ませて下さった、先生方のさすがの機転に、スタッフ一同、本当に救われた思いでした。



Q4.

AOIの催しには関心がありましたがあなたが伺えなかったので、今日は来ることができ嬉しかったです。内容もとても良かったです。また、ぜひ伺いたいです。

(島田市・朝比奈様)

A4. ご来場いただきまして、誠にありがとうございました。当館では、多くの方に良質な音楽を気軽に楽しんでいただけるよう、様々な催し物をご用意しております。またのお越しを心よりお待ち申し上げます。



★このコーナーでは、今後も皆様から寄せられた様々な声をピックアップしてご紹介予定です。どうぞお気軽に、ご意見・ご要望等をふるってお聞かせ下さい。

会員券及び
学生券の販売は
「AOI窓口のみ」での
お取り扱いと
なります

コンサートシリーズ08-09 NEXT INFORMATION



第13回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート
9/20 [土] 18:00 開演(17:30 開場)

全自由¥1,500(会員¥1,350、大学生以下¥1,000)

数多くのオーディション参加者の中から、世界的な演奏家である審査員たちに見い出された、静岡ゆかりの7組の精鋭たちが集合! AOIのシンボルであるオルガンや、減速に聴くことのない、2台を4人で奏でるピアノ8手など、文字通り七色の音色が楽しめます! 今後世界へと羽ばたく、将来性豊かなスター予備軍たちの「デビュー公演」を是非お聞き逃しなく!



©photo: Requina Recht DG



雅楽《秋庭歌》

10/18 [土] 15:00 開演(14:30 開場)

全指定¥4,500(会員¥4,050、大学生以下¥1,000)

ベートーヴェンの室内楽曲を彈かせたら、もはや右に出る者はいない。

と言っても過言ではない程、世界中で最高級の評価を得ている

「ヨーロッパの至宝」、ハーゲン弦楽四重奏団が再びAOIに登場!

しかも今回は、ベートーヴェン好きにはたまらない、室内楽の王道とも言える至極のプログラムを

BESTチョイス! 前回公演での大好評を受け、今回は発売前から早くも問合せ殺到中です!

触れる音

レイフ・オヴェ・アンスネス ピアノ・リサイタル

10/23 [木] 19:00 開演(18:30 開場) 全指定¥4,000(会員¥3,600、大学生以下¥1,000)

AOI
育ち

～AOIゆかりの～

PICK UP
アーティスト

Vol.1

オルガニスト

大木麻理



当時(平成7年)の「広報しづおか」に偶然掲載されていた、大木さん親子のオルガン建設現場見学風景。

写真左が当時の大木麻理さん。(写真提供:静岡市広報課)

AOIは私の「原点」♪

AOIを私が初めて訪れたのは、小学校3年生の時。

まだ開館前の、オルガン建設中の時でした。その時は、ただ単に母に連れられて見学に行った、というだけで、特にオルガンに興味があつて、て訳じゃなかったんです(笑)。

私がオルガンに興味を持ったのは、小学校5年生の時。

当時ピアノの先生もしていた母が、教会でオルガンを習いはじめ、その先生に、ある日「麻理ちゃんも弾いてみる!?'と誘われ弾いてみたらもう楽しくって…(笑)

以来、オルガンにのめり込んでいった、という訳です。

その頃から、東京にもレッスンに通いはじめたのですが、月に1回位のペースでAOIのオルガンでも練習させていただき、さらに、中学生からは「子どものための音楽ひろば」にも参加し、合唱なども楽しんだり…と、AOIとは、ほんとに小さな頃から、まさに『もう一つの我が家』みたいな感じでおつきあいしてきました。

おかげで語り尽くせない程の、かけがえのない思い出も沢山できました。

そんな私が、本格的にオルガニスト(プロ)を目指そう!と決意したのは、大学=東京芸大3年の頃、ドイツへのオルガン旅行がきっかけでした。

本場のドイツでその魅力の奥深さを目の当たりにして、それまではただ好きで“がむしゃら”に弾いていたオルガンを極めてみたい、と思ったんです。

ピアノに比べ、オルガンはさらに難しいのでは…なんて、残念ながら敬遠されがちなのが現状ですが、こんな身近なAOIに、全国にも誇れる立派なオルガンがあるんですから、ぜひ同郷のちびっ子たちにも、お母さんと一緒に気軽にAOIに足を運んでもらって、その魅力に小さな頃からどんどん触れて欲しいな、と思います。

幼い頃の私が、そうだったように。

《プロフィール》

1985年、静岡市生まれ。小学校5年生頃からAOI他でオルガンを習いはじめ、これまでに菊池みち子、廣野嗣雄、椎名雄一郎の各氏にオルガンを、今井奈緒子、廣沢麻美の各氏に通奏低音を、鈴木雅明、大塚直哉の各氏にチェンバロを師事し、東京芸術大学を経て卒業。日本オルガニスト協会会員、ららぽーと豊洲オルガニスト、ミュージックアカデミー東京講師。現在、東京芸術大学大学院音楽研究科2年在学中、オルガンコンサート・アシスタント。2008年、第13回「静岡の名手たち」オーディション合格。同年、AOIにおいてリサイタルを開催。好評を博す。

《今後のコンサート予定》

- 9/20[土]第13回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート/静岡音楽館AOI
- 9/26[金]クーリムエル演奏会 フォーレ・レクイエム/川口総合文化センター リリア
- 10/10[土]修道士サタイル 東京芸術大学音楽堂
- 11/1[土]国際基督教大学学園祭オルガンコンサート/国際基督教大学講堂
- 11/15[土]J.S.バッハ カンタータ演奏会(第12,78,147番) /川口総合文化センター リリア
- 11/21[金]虎の門交響楽団第80回定期演奏会 サン=サーン:交響曲3番オルガン付/スマダトリオニホール

※その他、ららぽーと豊洲にて随時演奏を行なっています。

目次 INFORMATION

あなたもAOIのオルガンを弾いてみませんか?!

「オルガン練習」のご案内

当館では、より多くの皆様に当館自慢のパイプオルガンをホール使用料無料でご利用いただける、「オルガン練習」という特別なシステムを設けています。どうぞ、お気軽にご活用ください。

～AOIのオルガンの主な特徴～

- アルフレッド・ケルン社(フランス)製
- 41ストップ・パイプ総本数2,868本
 - ・手鍵盤3段(各56鍵)・足鍵盤30鍵
- オルガンケース=オーク材・木製/パイプ=松・金属/パイプ=錫&亜鉛合金
- 高さ8.5m・幅9.5m
- カプラー機能
コンビネーション機能
スウェルBOX採用

■時間

※下記の3つの時間帯を

各1区分としてご利用可能

[午前] 9:00~12:00

[午後] 13:00~16:30

[夜間] 17:30~21:30

■料金=1区分・10,190円

(ホール使用料は徴収しません)

■お申込受付=ご利用日の1ヶ月前より受付けております

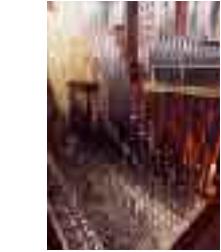
〈注意事項〉

ご利用にあたっては、いくつかの条件がございますので、詳しくはお問合せください。

★お申込み・お問合せ

当館7階インフォメーション

(☎054-251-2200)まで



手にとるように、音と遊ぼう。

CONCERT HALL SHIZUOKA

AOI

お問い合わせ (054)251-2200 ☎420-8691

静岡市葵区黒金町1番地の9

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館)

URL <http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp>

e-mail info@aoi.shizuoka-city.or.jp

JR静岡駅北口を出てすぐ左!



静岡音楽館俱楽部 会員募集中!!

会員優先発売・チケット割引などの特典もいろいろ!